練馬区立南町小学校

南町小だより

つよく　かしこく　あたたかく

平成２８年　２月２９日

校　長　　福 田　俊 彦

自分の大切さ　他の人の大切さ

校　長　　福田　俊彦

明日から弥生の月です。学校の受付前には、雛壇が飾られ、近隣の花屋の店先には、桃の花を見ることができます。春の温かさを感じるまで、もう少しです。そのような中、登校してくる子供たちを迎える平成２７年度の朝も残り少なくなってきました。６年生の教室には、卒業まで後〇日というカレンダーも見られます。一日一日を大事にしていることがうかがわれます。子供たちには、「このメンバーで、この６年生と、南町小学校という場所で生活できるのは、３月２４日までです。」と話しました。ここでの出会いは偶然かもしれません。偶然は、ともに学校生活を創ってきた経験を通して、必然へと変わってきたことを感じて欲しかったのです。

さて、本年度も「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができる」ことを教育活動の根幹としてきました。自他の大切さを認め合い、そのような行動、言葉遣いを行う場面は、学校生活の中に多くあります。授業の中に、休み時間に、給食や清掃の時間に。そして、校外学習の時にも。

２月１３日（土）に行われた持久走大会に至るまでの練習の中でも、その様子を見ることができました。みんなで走ることを通して、最後までがんばることを互いの姿から学ぶことです。「がんばれ。」「もう少し。」「ラスト。」というかけ声には、相手を思う気持ちが込められています。その声をかけられた子供は、次に言葉を返す立場になります。互いの心が通い合う場面です。

図画工作の授業での場面です。４年生が「パッケージデザイン」の学習をしていました。お菓子のパッケージを創作する場面です。先生の質問「好きなお菓子を思い浮かべて。」に、子供たちが次から次へと発言をしていきます。一人の子供の発言に、うなずき、そのお菓子の味を声にしている子供もいます。「あー。」と声を発する子供もいます。子供同士が繋がっていることを感じました。

子供たちは、この情報をもとに「新しいお菓子」を想像していきます。そして、そのお菓子の特徴が伝わるパッケージをデザインします。私も、子供と同じ計画書をもらい、考えたみました。いろいろなお菓子をどのように繋げるのか、量や大きさはどうしたらよいか、どんな味がよいか等、考える楽しさがありました。しかし、子供たちの発想には驚かされました。私には思いもつかない物が出てきます。互いのアイデアを見合い、その新鮮さに「すごい。」と声を出しています。「これは、どうやって食べるの？」「どんな味がするの？」「値段は何円？」等、ここでも子供の学習が繋がっていきます。互いを受け止めているのです。

平成２７年度の教育活動では、学校生活の中での関わりの場面を大切にしてきました。子供の行動を、言葉遣いを、「とてもいいよ。」「こうするともっといいよ。」と価値付けてきました。日々の授業の中での、生活の中での子供の活動の積み重ねが、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める子供」をはぐくんでいきます。継続することで本物になってきます。南町小学校では、今年度までの教育活動のよさを踏まえ、平成２８年度の教育も、互いの大切さを認め合う子供をはぐくむことに尽力をしてまいります。この１年間、ご理解とご協力をいただけましたことに心より感謝を申し上げます。